

## Ⅹ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

### 【実施概要】

#### 1 背景

丹沢大山の自然再生に向けて、県民協働による自然再生活動や調査研究、環境学習、普及啓発を推進するため、県はこれまで、様々な団体や企業、市町村等と連携し、「丹沢大山クリーンピア21※1」や「丹沢の緑を育む集い実行委員会※2」などに参加するとともに、ボラネットを通じて、活動団体への支援・協力を行ってきた。

※1	丹沢大山クリーンピア21	丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミ持ち帰り運動を推進することを目的とし、企業、各種団体および行政機関等の協力により設立され、賛助会員、ボランティア会員(団体)、行政機関会員で構成される。
※2	丹沢の緑を育む集い実行委員会	丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などを協働で行っている各種団体および行政機関で構成されている。

#### 2 施策の方向性

第4期自然再生計画では、自然再生委員会との連携やこれまでの協働の取組を継続するとともに、新たな協働の取組を検討する。また、自然環境保全センター及び神奈川県立ビジターセンターを自然再生活動に係る協働と普及啓発の拠点として活用するとともに、自然再生委員会のホームページや自然環境保全センターのツイッター（現X）とホームページを活用して、情報発信する。さらに、自然再生委員会と連携して自然再生事業の総合評価と検証を行う。

#### 3 第4期丹沢大山自然再生計画の主な取組と成果

##### (1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

- ・ 自然環境保全センターは、サントリーホールディングス（株）と平成21年度に締結した協定に基づき、丹沢県有林で行われている「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト※3の活動に協力した。
- ・ 自然再生委員会と連携した活動報告会の開催や各団体との共催による各種イベントによる普及啓発活動などに取り組み、自然再生の普及啓発を図った。

※3	自然再生プロジェクト	再生委員会の構成員が単独又は連携して、丹沢大山自然再生基本構想に則って取り組む自然再生事業を、自然再生プロジェクトとして登録し、プロジェクトの順応的な実施を図るもの。
----	------------	---

##### (2) 県民協働の枠組みを通じた連携

- ・ 丹沢大山クリーンピア21や丹沢の緑を育む集いなどに参画し、様々な団体や企業、市町村等とともに、山岳ごみの撤去や植樹などに取り組むほか、丹沢大山ボランティアネットワークを通じて、活動団体間の情報交換や協働活動への支援・協力を行った。

### (3) 協働・普及啓発の拠点の活用

- ・ 自然観察等の指導者に対する研修会を開催するとともに、自然環境保全センターの展示室、野外施設を活用した県民向けの自然観察会等を通じて、自然環境の保全に関する普及啓発と、保全活動等を実践してもらう契機とした。

### (4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

- ・ e-Tanzawaを活用し、自然再生の取組状況について最新の情報を提供するとともに、自然再生に関する普及啓発に取り組んだ。
- ・ 令和2年度より自然環境保全センター独自のツイッター（現X）アカウントを取得し、自然環境保全センターの野外施設や、丹沢を中心とした山の情報、自然再生への取組等の紹介などの情報発信を行った。

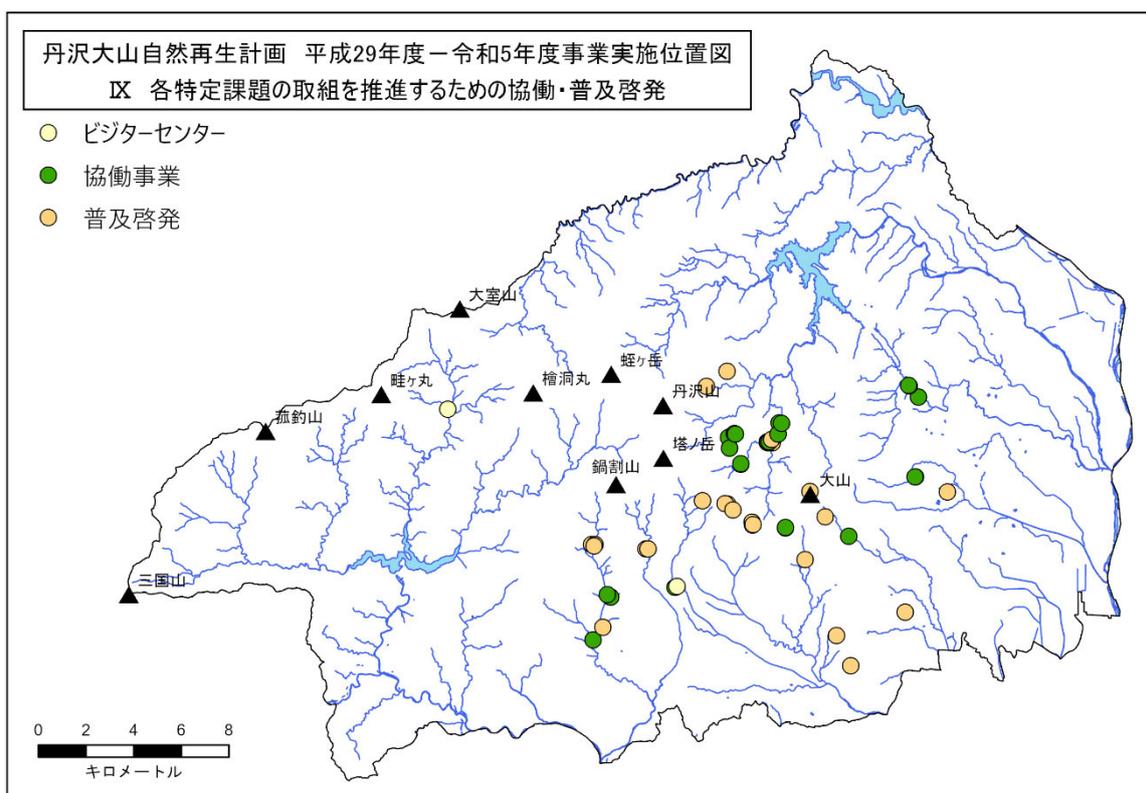


図9-1 事業実施位置図（IX 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発）

## 4 第4期計画の課題

- ・ 自然再生への理解と県民参加を推進するために、新たな人材や協力団体、企業を発掘する必要がある。
- ・ 将来にわたって県民との連携・協働により丹沢大山の自然再生を進めていくため、自然再生委員会や団体、大学、企業等と連携して各種事業に取り組むモデル流域を設定し、実践することで人材育成と普及啓発に努める必要がある。
- ・ 自然環境保全センターの展示スペースや自然観察園等の施設をリニューアルする等して、普及啓発の拠点として利活用していく必要がある。

## 5 【主要施策ごとの事業実施状況】

### (1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

#### ① 民間との連携による自然再生プロジェクトの推進

##### 【事業内容】

自然再生委員会の構成員が取り組む「自然再生プロジェクト」について、技術・知見の提供、自然再生計画及び関連事業との調整等などの協力を行い、丹沢で自ら保全・再生活動を行う企業や団体等による計画的な自然再生活動に協力する。

##### <実施状況>

県とサントリーホールディングスが協定に基づき実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトの実施にあたり、植生保護柵の設置や人工林の混交林化、モニタリング（動植物調査、土壌調査）など具体的な取組をまとめた5ヶ年計画を作成し取組を進めている。

当該計画に基づき、スギ・ヒノキ人工林の光環境改善による将来の混交林化に向けて、小面積(0.03～0.05ha)伐採（群状・列状）や間伐、植栽、土壌保全工、植生保護柵設置・補修などの森林整備を実施した。

また、これら整備地において植生モニタリング調査やノウサギ生息状況調査を行った。

調査の結果、伐採後の植生保護柵内において林床植生の増加やノウサギ出現頻度の増加が見られたほか、保護柵外のシカ採食圧による問題などが確認できた。



写真9-1 平成30年度帯状伐採地（施工5年後）



写真9-2 ノウサギ

#### ② **重点**団体等との協働による自然再生の取組の推進

##### 【事業内容】

自然再生委員会が団体等と協働で行う自然再生活動の普及啓発や人材育成等の取組について、委員会の一員として参画するとともに、技術や情報の提供等により協力し、幅広い団体や企業等との協働や市民参加による自然再生を進める。

また、自然環境（自然災害を含む）や社会情勢の変化を踏まえながら順応的に自然再生を進めていくため、引き続き、自然再生委員会と連携・協働して、情報の収集や課題を抽出しながら自然再生の取組を進める。

## <実施状況>

### ・丹沢フォーラム

丹沢自然保護協会、緑を育む集い実行委員会、自然再生委員会の共催により、毎年実施している「丹沢フォーラム※4」に職員を講師として派遣し、県の取組状況を説明するなど、自然再生の取組について普及啓発を行った。

※4	丹沢フォーラム	一般市民を対象にし、わかりやすく自然環境保全の普及啓発を行う、丹沢自然保護協会、緑を育む集い、再生委員会共催のイベント。
----	---------	--

### ・地域環境イベントかながわエコ10フェスタ

自然再生委員会会員2団体（神奈川県自然保護協会・神奈川県公園協会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。（R3年をもって終了）

### ・秦野丹沢まつり

自然再生委員会会員4団体（神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・かながわ森林インストラクターの会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

### ・ワールドフェスタ

自然再生委員会会員7団体（丹沢自然保護協会・神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・かながわ森林インストラクターの会・神奈川県公園協会・かながわトラストみどり財団）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

### ・森林探訪

丹沢大山地域の山麓の森林を散策しながら森林の機能等を理解してもらうため、かながわ森林インストラクターの会が長年実施してきた「森林探訪」について、平成28年度から自然再生委員会の共催とし、活動に対する技術・知見の提供を行った。

### ・丹沢大山自然再生活動報告会

毎年1回、活動報告会を開催し、自然再生委員会会員団体の活動内容や調査研究の報告、時宜の話題に関する講演・討論を行った。

### ・あつぎ環境フェア

自然再生委員会会員4団体（神奈川県山岳連盟・みろく山の会・ボラネット・神奈川県公園協会）と連携して丹沢大山の自然再生の取組をPRした。

表9-1 イベント参加者数

(単位：人)

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
丹沢フォーラム春	98	46	45	中止	46	-	30	265
丹沢フォーラム秋	27	54	47	中止	54	40	-	222
エコ10フェスタ	700	700	450	中止	中止	終了	-	1,850
秦野丹沢まつり	-	200	300	中止	中止	中止	326	826
ワールドフェスタ	900	700	中止	中止	中止	450	790	2,840
森林探訪	42	34	28	10	16	34	50	214
活動報告会	165	250	320	中止	70※2	100※2	98	1,003
あつぎ環境フェア	-	-	-	-	-	-	142	142

※太枠内は第4期計画期間



写真9-3 ワールドフェスタ・ヨコハマ2023



写真9-4 令和5年度丹沢大山自然再生活動報告会  
(横浜市中区 情文ホール)

### ③学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

#### 【事業内容】

自然再生委員会が学校教育等と連携して行う体験学習等への技術・情報提供や、大学との連携、環境学習活動を行う団体等との連携による自然再生の担い手づくりに協力する。

#### <実施状況>

- ・丹沢やまみち再生体験・高校生レンジャー（巡視）体験  
 県高校体育連盟が主催する「夏山情報交換会」「新人登山大会」に合わせて、登山部に所属する生徒を対象に自然再生の取組を紹介したほか、登山道補修体験を実施した。
- ・森の学校  
 丹沢自然保護協会が小中学生を対象に長年実施してきた「森の学校」を平成27年度から

自然再生委員会との共催とし、自然再生の必要性について考える契機となるよう、青少年を対象に自然の仕組みについて知ってもらうための自然体験や調査等を行った。

・森林環境教育

自然再生委員会が共催し、かながわ森林インストラクターの会の主催による「森林環境教育」を実施した。小学生を対象に自然環境に関する理解を深めてもらうため、やどりぎ水源林において自然観察や水源かん養機能の説明を行った。

・教育機関や民間団体等からの依頼による視察受入や研修等

自然環境保全センターは、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関や、民間団体等からの依頼を受け、施設内や自然再生事業地の視察の受入れや研修等を実施し、丹沢地域及び横浜等の都市部の教育機関への普及啓発を図った。

表9-2 環境学習等イベント参加者数

(単位：人)

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
やまみち再生体験	-	22						22
高校生レンジャー体験			98	中止	中止	100	150	348
森の学校（夏）	43	44	48	36	中止	35	45	251
森の学校（冬）	38	24	25	中止	24	24	53	188
森の学校（春）	38	33	-	24	28	40	47	210
森林環境教育（寄水源林）	-	-	6	-	7	7	-	20
県立高校校外学習	-	42	37	-	-	41	-	120

※太枠内は第4期計画期間



写真9-5 令和6年1月・高校生レンジャー体験  
(秦野市)



写真9-6 森の学校（夏の学校）  
[愛甲郡清川村煤ヶ谷]

#### ④モデル流域によるモミ等自然林の再生

##### 【事業内容】

尾根から谷を囲む数約10ha 単位のモデル流域を設定して、自然再生委員会や大学と連携して溪畔林の再生や斜面中腹から尾根部のモミ等自然林の再生に取り組む。

【関連Ⅳ-5(2)④】

<実施状況>

Ⅳ-5(2)④に記載のとおり。

#### (2) 県民協働の枠組みを通じた連携

##### ①重点 丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い等による連携・協力

##### 【事業内容】

丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い、協定に基づく新たな協働事業といった協働の枠組みの一員として、引き続き植樹、美化活動、水場水質調査などに参画・協力するとともに、新たな協働の取組も検討する。【関連Ⅷ-5(2)①】

<実施状況>

- ・丹沢大山クリーンピア21

丹沢大山国立公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るため「ゴミの持ち帰り運動」を推進し、丹沢大山クリーンキャンペーン※5や構成員であるボランティア会員(団体)による清掃活動を支援した。

※5	丹沢大山クリーンキャンペーン	毎年10月から11月に相模原市、厚木市、伊勢原市、秦野市、清川村、山北町、松田町の各市町村会場を中心に実施される普及啓発と清掃活動
----	----------------	---

表9-3 丹沢大山クリーンキャンペーン実施状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
参加団体数	59	84	84	40	49	39	49	404
参加人数	3,030	3,908	1,679	1,015	1,136	3,440	3,355	17,563
収集量(kg)	2,281	4,006	1,842	1,575	1,556	8,088	4,938	24,286

※太枠内は第4期計画期間

表9-4 ボランティア会員による清掃活動状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
参加団体数	13	13	12	5	5	6	4	58
参加人数	1,605	1,227	1,260	171	467	573	603	5,906
収集量(kg)	1,604	996	931	182	471	809	422	5,415

※丹沢大山クリーンキャンペーンの内数、太枠内は第4期計画期間

・丹沢の緑を育む集い実行委員会

緑を育む集いにより、植樹やウラジロモミの防護ネット設置等を行った。

表9-5 植樹活動「コリドー(緑の回廊)」実施状況

(参加人数)

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
春の植樹	98	96	141	中止	106	188	160	789
秋の植樹	67	172	-	160	288	222	230	1,139

※太枠内は第4期計画期間

表9-6 防護ネット設置等実施状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
参加人数	27	21	0	0	-	-	-	48
設置本数	0	0	0	0	-	-	-	0
補修本数	43	108	0	0	-	-	-	151
撤去本数	0	0	0	0	-	-	-	0

※太枠内は第4期計画期間

・丹沢大山ボランティアネットワーク

ボラネットの活動を支援した。ボラネット連携による主な取組状況は以下のとおり。

「自然発見クラブ」鳥の羽標本づくり（自然環境保全センター）

「はだのエコスクール」動画等による野生動物教育（秦野市内保育園・小学校）

「山の自然セミナー」丹沢のナラ枯れについて（山岳スポーツセンター）

また、丹沢大山自然公園内各地水場での水質調査についてはVIII-5(2)①に記載のとおり。



写真9-7 丹沢大山クリーンキャンペーン



写真9-8 秋の植樹活動（秦野市菩提）

### (3) 協働・普及啓発の拠点の活用

#### ①自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

##### 【事業内容】

自然環境保全センターについて、自然再生事業の順応的实施を支える機能の充実を図るとともに、野外施設及び展示施設を保全・再生活動の体験実習フィールドとして位置付けるなど、協働による自然再生活動や環境学習の拠点としての機能を高め、自然再生活動に取り組む団体・企業等による活用を促す。

##### <実施状況>

フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）として活躍する人材を育てる養成講座の実施及び身に着けた知識や技術を発揮する活動実践の場としてのミニ観察会等を実施した。

また、自然の素材を利用した工作等の体験活動を通して、身近な自然環境について学ぶ「自然発見クラブ」を実施した。

このほか、自然再生活動を実践するボランティア団体が実施する調査研究、大学生等の研修、近隣地域の教育委員会を通じた小学校の環境学習などの受入に、自然環境保全センター本館・野外施設の活用を促進した。

展示施設について、本館1階では、丹沢の自然再生の取組や歴史、文化等に関する壁面展示パネルを全面的に刷新、野鳥の鳴き声を用いた人感スピーカーやタッチパネルの丹沢再生クイズを設置するなど、充実させた施設を活用して普及啓発を促進させた。

本館2階では、丹沢の自然再生に関するパネル等を展示する「企画展」を年に数回テーマを変えて開催し、丹沢大山地域の自然や歴史、文化について紹介したほか、平成30年度から図書室を常時開室とし、丹沢地域の地形ジオラマの展示を開始するなど、視覚的工夫による効果も高めている。

表9-7 自然保護講座実施状況（フィールドスタッフ養成講座を含む）

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
回数	9	9	9	0	-	2	5	34
参加人数	211	243	191	0	-	38	116	799

※太枠内は第4期計画期間

表9-8 県民向け観察会の実施状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
回数	99	96	88	0	-	46	52	381
参加人数	1,899	1,749	1,623	0	-	447	515	6,233

※太枠内は第4期計画期間

表9-9 自然発見クラブ実施状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
回数	4	4	5	0	-	6	6	25
参加人数	98	60	94	0	-	110	103	465

※太枠内は第4期計画期間

表9-10 自然環境保全センター利用状況

項目名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
利用者数	23,036	24,044	18,676	15,008	14,920	16,024	16,300	128,008

※太枠内は第4期計画期間



写真9-9 壁面展示パネル



写真9-10 丹沢地域の地形ジオラマ

## ② 神奈川県立ビジターセンター等との連携による自然再生活動の推進

### 【事業内容】

神奈川県立ビジターセンターについては、自然環境保全センターとの一層の連携を深めて普及啓発等を充実し、丹沢の自然再生に関する企画等を行うとともに、各地域で環境学習活動や保全・再生活動を行っている団体等の活動拠点として活用を図る。

〔関連Ⅷ-5(2)②〕

### <実施状況>

Ⅷ-5(2)②に記載のとおり。

#### (4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

##### ① ツイッター（現X）やHPを活用した自然再生情報の蓄積と発信

###### 【事業内容】

丹沢大山自然再生に対する県民の理解の促進や、自然再生の取組をさらに広げるために、自然環境保全センターのツイッター（現X）とホームページを活用して丹沢の自然環境や自然再生の取組を情報発信するとともに、引き続き自然再生委員会のホームページとも連携した情報発信を進めていく。

###### <実施状況>

丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)を活用し、自然再生プロジェクトの活動レポートや第1期自然再生計画以降の実施報告書を取りまとめて掲載するなど、自然再生の取組みについて最新の情報を提供することにより普及啓発を促進した。

また、令和2年度より自然環境保全センター独自のツイッター（現X）アカウントを取得し、自然環境保全センターの野外施設や、丹沢を中心とした山の情報、自然再生への取組等の紹介などの情報発信を行った。令和5年度1年間のポスト数は157、フォロワー数は令和7年1月時点で3,361であった。



写真9-11 自然環境保全センターXアカウント



写真9-12 大きな反響のあったポスト

##### ② 自然再生委員会との協働による自然再生事業の検証

###### 【事業内容】

丹沢の自然環境の現状や自然再生の取組に関する蓄積した情報を活用して、科学的・順応的に自然再生事業を実施するとともに、自然再生委員会と協働して自然再生事業の総合評価、検証を行う。

###### <実施状況>

丹沢の自然再生の取組やモニタリング調査の結果を実施報告書として取りまとめ、自然再生委員会事との協働により科学的根拠に基づく評価を行い、5年を期間とする事業計画を策定するごとに、柔軟に事業の見直しを行った。